

みずほCustomer Desk Report 2019/08/20号(As of 2019/08/19)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	106.43
TKY 9:00AM	106.43	1.1093	118.05	GBP/USD	1.2160
SYD-NY High	106.70	1.1114	118.47	AUD/USD	0.6786
SYD-NY Low	106.25	1.1077	117.89		
NY 5:00 PM	106.64	1.1078	118.14		
NY DOW	26,135.79	249.78	日本2年債	-0.2800	0.00bp
NASDAQ	8,002.81	106.82	日本10年債	-0.2300	1.00bp
S&P	2,923.65	34.97	米国2年債	1.5514	6.69bp
日経平均	20,563.16	144.35	米国5年債	1.4795	5.69bp
TOPIX	1,494.33	9.04	米国10年債	1.6072	4.57bp
シカゴ日経先物	20,645	75	独10年債	-0.6525	3.40bp
ロンドンFT	7,189.65	72.50	英10年債	0.4665	0.45bp
DAX	11,715.37	152.63	豪10年債	0.9200	4.50bp
ハンセン指数	26,291.84	557.62	USDJPY 1M Vol	7.89	0.03%
上海総合	2,883.10	59.27	USDJPY 3M Vol	7.66	▲0.30%
NY金	1,511.60	▲12.00	USDJPY 6M Vol	7.43	▲0.24%
WTI	56.14	1.27	USDJPY 1M 25RR	-1.58	Yen Call Over
CRB指数	170.78	0.37	EURJPY 3M Vol	8.23	▲0.26%
ドルインデックス	98.35	0.20	EURJPY 6M Vol	8.01	▲0.20%

【昨日の指標等】

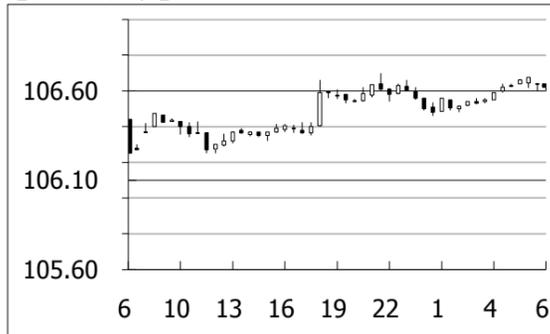
Date	Time	Event	結果	予想
8月19日	08:50	日 貿易収支	7月 -¥249.6b	-¥194.5b
	18:00	欧 コアCPI・確報	7月 0.9%	0.9%
	18:00	欧 CPI(前月比)	7月 -0.5%	-0.4%
	18:00	欧 CPI(前年比)・確報	7月 1.0%	1.1%

【本日の予定】

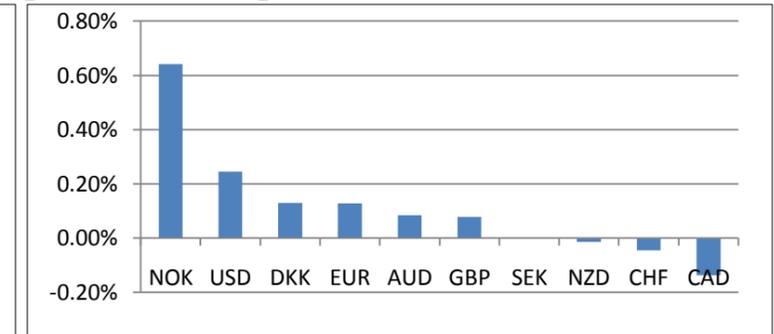
Date	Time	Event	予想	前回
8月20日	15:00	独 PPI(前月比)	7月 0.0%	-0.4%
	15:00	独 PPI(前年比)	7月 1.0%	1.2%

アジア	早朝にトランプ米大統領が「米国は安全保障上の理由で中国通信機器大手との取引を望まない」と表明したとの報道が伝わると一時106.25まで下落も、直後反発し106.40台に回復、東京時間のドル円は106.43レベルでスタート。その後、米長期金利の持ち直しや日本株の上昇は特段材料視されず、106円前半で上値の重い推移が続き、106.41レベルでロンドンへ渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、106.39レベルでオープン。先週末に低下した米金利の持ち直しに連れてドル円は上昇、その後はほぼ横ばいで推移。午後に入り、ロ米商務長官がファーウェイに対する禁輸猶予を90日間延長すると明らかにするとドル円は106.70まで上昇。その後上値は重く推移し、106.61レベルでNYに渡った。ポンドは、朝方に英野党議員から議会招集を直ちに行い英EU離脱についての協議を行う必要があるとの発言があったことから、同離脱への懸念が強まりポンドは1.2171から下落しオープン。午後はジョンソン英首相が独仏に対し英EU離脱についての妥協を要求したことや合意なき離脱を改めて強調したことが伝わるとGBP売りとなり1.2105まで下落。22日の仏首相との会談や米イベントを控える中、狭いレンジでの推移1.2117レベルでNYに渡った。(ロンドン17:00 00531 444 179 川田)
ニューヨーク	海外市場のドル円は、106.40近辺でもみ合いでスタート。欧州時間に入ると米長期金利が1.6%台に回復したことや、ロ米商務長官が中国電子機器大手に対する制裁猶予の90日間延長を発表したことから、ドル買い優勢となり、106.70まで上昇。その後、小幅反落し、106.61レベルでNYオープン。主要な米経済指標発表が予定されていない中、朝方はトランプ米大統領が「FRBは少なくとも政策金利を100bps引き下げるべき」とSNS上に投稿したが、ドル円の反応は限定的だった。その後、米株や米金利の上昇幅縮小の動きに圧迫され、一時106.46まで下落。午後にかけては、米株がプラス圏で堅調に推移し、米金利も下げ止まったほか、ローゼン格林・ボストン連銀総裁が「米経済は依然として好調で、利下げを支持する意向はない」とインタビューで述べたことがドル買いをサポートし、106.67までじりじりと上昇。終盤は小幅反落し、106.64レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは、1.1090近辺での小動きでスタート。欧州時間に入ると合意なきブレグジットへの懸念が強まり上昇したユーロポンドに連れ高となり、1.11台を回復。早朝に「ドイツ政府が大規模な景気刺激策を準備」との報道にユーロ買いで反応し、一時1.1114まで上昇。その後、小幅反落し、1.1103でNYオープン。朝方は手掛かり材料が乏しい中、1.1100近辺でもみ合い。午後は米株や米金利の堅調推移などを受けて、ドル買い優勢となり、1.1077まで下落し、1.1078レベルでクロス。

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	106.20-107.00	1.1050-1.1150	117.50-119.00

【マーケット・インプレッション】

前日のドル円相場は堅調推移。今週末開催予定のジャクソンホールでの講演会における主要中銀の景気刺激策の発表に対する期待感により、リスクセンチメントはやや改善した。また、米中貿易問題については、米政府がファーウェイに対する禁輸措置の執行を90日間延期するとした一方で、エンティティリストへファーウェイ関連企業を更に追加したことが報じられ、これはドル円の上値の重しとなった。

本日のドル円相場の見通しは、底堅い推移を予想する。米株は上昇しており、リスクセンチメントの改善も見られることからドル円は買われやすい地合を想定するが、引き続き米中貿易問題については注意が必要だろう。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 高根・小笠原